

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A :よくできている B :概ねできている、C :あまりできていない、D :できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
心豊かにたくましく自分の思いを出せる子	もっと まだまだが止まらない	安心できる大人とのかかわりの中で気持ちを通わせ、自分の思いや欲求を表現している	子ども自身の言葉の発達により、言葉で伝えたり保育者の言葉に反応したりして思いが伝わりやすくなった事、さらに思いを出すようになっていく。うまく伝えられないときは、保育者が思いを受け止め言葉にして返すことで、安心して思いを出そうとする姿に繋がっている	A	A	・今年度の1年生の遊びの姿から、こども園で育てられてきたことが、確実に小学校の生活科の学習につながっていると感じている	・保育者が遊びのモデルとなり、子どもの興味を広げるために仕掛けたり、きっかけを作ったりするなど次の遊びにつながる環境(教材等)や、それを提供するタイミングや方法を学んでいく
		周りの事や物、友達に関心を持ってかかわろうとしている	保育者自身が遊びを楽しむ姿を見せることで、子どものやってみてが引き出され、自ら遊びを真似したりやってみたりする姿に繋がっている。園児数が少ない中で、友達同士で互いに関わり合える遊びの環境を作っている	A	A		・豊かな実体験や感動体験、成功体験を積み重ねていくことで子ども一人一人の自信へとつながられるよう、環境を用意したり人との関わりを増やしたりと直接的な体験の機会を作っていく
		色々な探索活動をしなが、遊びの楽しさを感じている	保育者が遊びのモデルとなることで、子どもの遊びが広がり、自分なりに遊ぼうとする姿は見られるが、初めての遊びに躊躇しやすい傾向がみられる。遊びの楽しさを自ら見て感じる機会が少ないことや、遊びの伝承がなかなかされていかないことが課題となる	B	B		

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策 (来年度の具体的な取組目標等)
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	子どもの発達や経験の差を考慮した計画を作成し、適切な援助が行われている	子どもの成長や発達と今何を楽しんでいるか等を探りながら指導計画を作成し保育実践が行われた。反面、職員間で経験させたいことのおさえの共有が十分されていないと感じる。職員全体での話し合いの場を作っている	B	B	・1年生のけんかの場面で今までは1対1でもめていることが多かった。今はリーダー的存在が出てきて「どうするか」を皆で考える姿に成長を感じる。こども園で一人一人の成長に目を向けゆったり育ててきたことの成果であり小学校で生きていくと感じる	各年齢の発達のおさえを、年度当初に実施。その後もその都度子どもの成長や興味関心から経験させたいことを、指導計画の作成により明確にし、会議で共有する
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	食事や排泄、睡眠など一人一人の生理的欲求に応じた生活が送れるよう援助を行っている	一人一人の生活リズムや発達に合わせた援助が行われたことで、子どもが安心して生活している姿が見られる。保育時間の長い子どもの保育の連続性をどのように保障していくかについて職員間で話し合っていく必要がある	B	B		基本的な生活習慣の身につけ方や生活リズム、保育時間等については個人差が大きいので、その子に合った援助の仕方を職員間で話し合い、「見守る、待つ」姿勢で関わり、肯定的に受け止めていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	好奇心を持ち、興味や関心を遊びに引き出す環境構成が行われている	保育者の思いが先走らないよう、子どもの姿から環境を作れるようになってきた。しかし、その後遊びが広がらないことが課題。保育者の意図やねらいを込め、遊びの先を予測して環境づくりを行っている	B	B	・子どもの人数が少ないということは、小学校もそれを課題にしてもどうにもならないこと。学校は地域の一人として何ができるかを考えている。例えば、挨拶を通して地域の方の顔を覚え、人としての接し方ができるようにすれば、子ども同士の関わりでなくても、人とのかかわりあう学習ができると考えている	行事や園外保育などを通し、友達と一緒に体験したことが遊びの中に取り入れられ、継続や展開がされていくよう、環境構成を行う
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	その場でヒヤリハットを共有し対策を考え対応することで、安全への意識が高められている	様々な想定で災害訓練を実施することにより、職員間でその都度対応策を考えるなど安全への意識が高められている。また、ヒヤリとした事例をその都度周知する事により大きな事故が防がれている。何気なく回避したり直していることにも目を向け、さらに安全な保育環境を目指していく	B	B	・子どもが学習する上では同世代の関わりも大切。由比北小との交流の機会を通し、深めていくよ	・訓練を重ね、保育者が状況に応じた判断ができるようスキルを身につけていく ・けがや事故だけでなく個人情報の漏洩などの危機管理意識も高めていく ・改善できることは引き続き迅速に対応していく
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・さくらんぼリズムなど、十分に体を動かす遊びを取り入れ、健康に過かしている ・感染症対策が十分に図られている	・子どもが扱いやすい可動遊具を利用し全身を使って遊べる環境を用意したことで、自分で組み立て遊ぼうとする姿に繋がっている。また、2歳児を中心にさくらんぼリズムを取り入れ楽しみなが健康な体づくりを行った ・衛生面については、保育者により十分な対策が行われている。また、手洗いうがいなど必要な2歳児なりに意識して取り組む姿が見られている	B	A	・最近、園での不適切な行動の報道が多い中、先生方も大変だと感じている	・様々な運動遊びに挑戦する姿を支え、達成感や繰り返し挑戦しようという気持ちを育てていく。保育者も一緒に体を動かすことで楽しさを共有していく ・感染症予防のためにも、その必要性について根気よく伝えていくことで、自然と身につけられているようにする
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	子どもの実態や支援方法を話し合い、園全体で共通のかかわり方をしている	会議や日常的な時間で子どもの姿(育っているところ、これから育ってほしいところ等)や自身の保育を伝え合う場を持つことで、園全体で一人一人の子どもをみるという協力体制ができている	A	A	・入山こども園と北小とのつながりは昔から培われてきている。学校との強いつながりがある環境は他園では作り出せない。このような中で子どもたちは内面的な成長をしていく。この良い環境を小学校との連携で今後も継続してほしい	園全体で子どもを育てていくという意識をもち、日頃から情報交換を密にしている
5 組織運営	(1)組織体制の充実	各自、分掌や研修担当等役割を理解し、協力した体制で園運営が進められている	各自が役割を進めながらも、職員間で声を掛け合い、担当だけの負担とならないよう、お互いに協力しながら年間の計画通り園運営が進められた。月ごと進捗状況や提出書類状況等の確認を行っている	B	B	・「職員間で」ということが何項目かあった。先生方相互の話し合いの場が不足しているようであるが、目標達成できるよう努めてほしい。それにより保育の方向性を共通理解できていくことにつながると思う	・全職員が組織で運営していることを自覚し、自ら積極的に取り組んでいく ・取り組みの反省点や改善点を、その都度周知していく
6 研修	(1)研修体制の充実	研修テーマを理解し、子どもが遊びの中で、何を楽しんでいるかを言語化する保育実践が行われている	公開保育を通し、自身の保育の振り返りや子どもの姿や成長、子どもの発達や興味関心に応じた環境構成について話し合い、研修テーマを意識した保育実践が行われた。また、実践記録様式の改善や研修だよりの発行で保育のスキルアップを図った。全職員で保育の方向性を共通理解するための研修方法を考えていく	B	B	・地域全体が縮小していく中で地域が少し離れているということ、園のこと、園児のこと等わからないことも多くなっている。空野地区は高齢者が多く、子どもたちを見ると元気が出るので、顔が見られることよい。もう少し園との接点をもち、家族的になれたらよいと思う。地域として協力していきたい	全職員が共有できるよう、効果的な園内研修の取り組み方(研修時間の確保等)を計画し実施していく。また、研修を通して行った評価が次のクラス運営や子どもの育ち反映されているか分析や確認をしていく
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	「もっと」「まだまだ」に繋がる援助や環境構成が行われている	子どもの思いを受け止め、環境を用意した。しかし、その遊びを継続させたり、次に展開させて行く為の再構成が十分できていないことが課題である	B	B		遊びだしのきっかけとなる体験や環境を、職員間でアイデアを出し合い用意し、子どもの「やってみよう」につなげる
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	保護者への情報発信の方法を工夫し、子育ての楽しさの共有が図られている	日々の様子を口頭や連絡ノートで知らせたり、クラスだよりに写真を載せ視覚的に子どもの姿・様子が伝わりやすい工夫した。保護者アンケートの意見で、写真や動画で子どもの様子を見たいという意見があり、年2回の参加会等を利用し保護者の声に応えていく	B	B		子どもの様子を具体的な方法(写真やスライド等)で家庭に発信し、園の取り組みの理解を図っていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	3園3校のつながりを活かし、児童と園児、園児と園児、職員同士の交流が深められている	・北小との交流が日常的に行われ、乳児としてできる範囲で学校との年間行事に参加することで、園と学校とのつながりが深められた ・例年実施している3園交流が実施できない中で、遠足や散歩で園や近隣の公園に来てもらえるよう今後発信していく事で、他園児との交流の機会を作っていく	B	B		・由比北小との日常的な交流を増やしていく。また、公開保育や公開授業の参加を通し、職員間での意見交換の場を作るよう連携をとっていく ・園児同士の交流の場を増やすために、積極的に他園に発信することで、子どもの社会性の広がりにつながっていく
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	園外に出かけ、挨拶したり可愛がってもらったりしながら、地域の自然や行事に触れ楽しんでいる	園外保育では園児と一緒に地域の人に挨拶をしたり、園庭から子どもと一緒に手を振るなど、挨拶や会話での簡単な交流を図り、乳児のペースで地域の方々と交流を重ねてきた。来年度は地域のお祭りに参加するなど、より身近に地域との交流を図っていく	B	B		地域の方や周りの自然など、子どもたちの身近なところにある人・事・物などを活用し、心描きぶられる感動体験を味わえるよう、保育者自身が地域を、保育の中に取り入れたり、園の様子を発信していく